

滋賀県内企業動向調査 ～16年4-6月期の実績見込みと7-9月期の見通し～ 景況感は依然大幅のマイナス水準

㈱滋賀銀行のシンクタンクである ㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 中川 浩）では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど 2016年4-6月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2016年4-6月期）
- ・調査時期：2016年5月10日～20日
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 937社
- ・回答数：328社（有効回答率 35%）うち製造業 142社、非製造業 186社
- ・分析手法：D I（ディフュージョン・インデックス）
＝「かなり良い」と「やや良い」の回答割合から、
「かなり悪い」と「やや悪い」の回答割合を引いた指数を採用

【調査結果の要旨】

1. 現在の業況判断（P 2～4）

- ・今回調査（16年4-6月期）での自社の業況判断D Iは-13で、前回（16年1-3月期）の-16から3ポイント上昇し、マイナス幅は縮小したが、依然大幅のマイナス水準にある。
- ・消費税増税が実施された14年4-6月期以降、9四半期連続で「悪い」が「良い」を上回るマイナス水準であり、今回はマイナス幅が縮小も厳しい状況が続いている。
- ・製造業は、前回の-25から14ポイント改善の-11となった。前回プラス水準に回復した木材・木製品（前回：+9→今回：-29）が大幅に悪化して再びマイナス水準となったものの、金属製品（-21→+5）、電気機械（-11→+8）はマイナス水準からプラス水準に回復。化学（-11→±0）はマイナス水準からもちあいに回復。繊維（-25→-12）、窯業・土石（-38→-17）、食料品（-33→-9）、一般機械（-22→-13）、その他の製造業（-27→-14）などはマイナス幅が縮小した。
- ・一方、非製造業は、前回の-9から5ポイント低下し-14となった。前回プラス水準に回復した建設（+8→-12）、運輸・通信（+6→-6）が再び悪化してマイナス水準となり、卸売（-25→-23）、小売（-34→-30）は2四半期連続で大幅なマイナス水準が続き低迷している。一方、不動産（-11→±0）は6四半期ぶりにもちあいに回復、サービス（-3→+4）は、4四半期ぶりにプラス水準に回復した。

2. その他の判断項目（P 4～7）

- ・売上D I（前回：-16→今回：-9）は、製造業は-15から-7に上昇、非製造業も-17から-10に回復した。全体では7四半期連続でマイナス水準（「減少」超過）が続いている。
- ・経常利益D I（-15→-11）は4ポイント上昇も、9四半期連続でマイナス水準となった。
- ・製・商品の在庫D I（+9→+7）は2ポイント低下し過大感が弱まった。
- ・販売価格D I（-8→-6）は2ポイント上昇した。
- ・仕入価格D I（+4→+10）は6ポイント上昇した。
- ・生産・営業用設備D I（±0→+1）は、12四半期ぶりにプラス水準となった。
- ・雇用人員D I（-16→-18）は、16四半期連続のマイナス水準で人手不足が続いている。

3. 設備投資の実施状況（P 8・9）

- ・設備投資を実施した（する）企業の割合は44%で、前回（53%）から9ポイント低下、3四半期ぶりに5割を割り込む。
- ・主な内容（複数回答）は、「生産・営業用設備の更新」（41%）が最多。次いで「生産・営業用設備の新規導入」「車両の購入」（25%）、「OA機器の購入」（21%）と続いた。

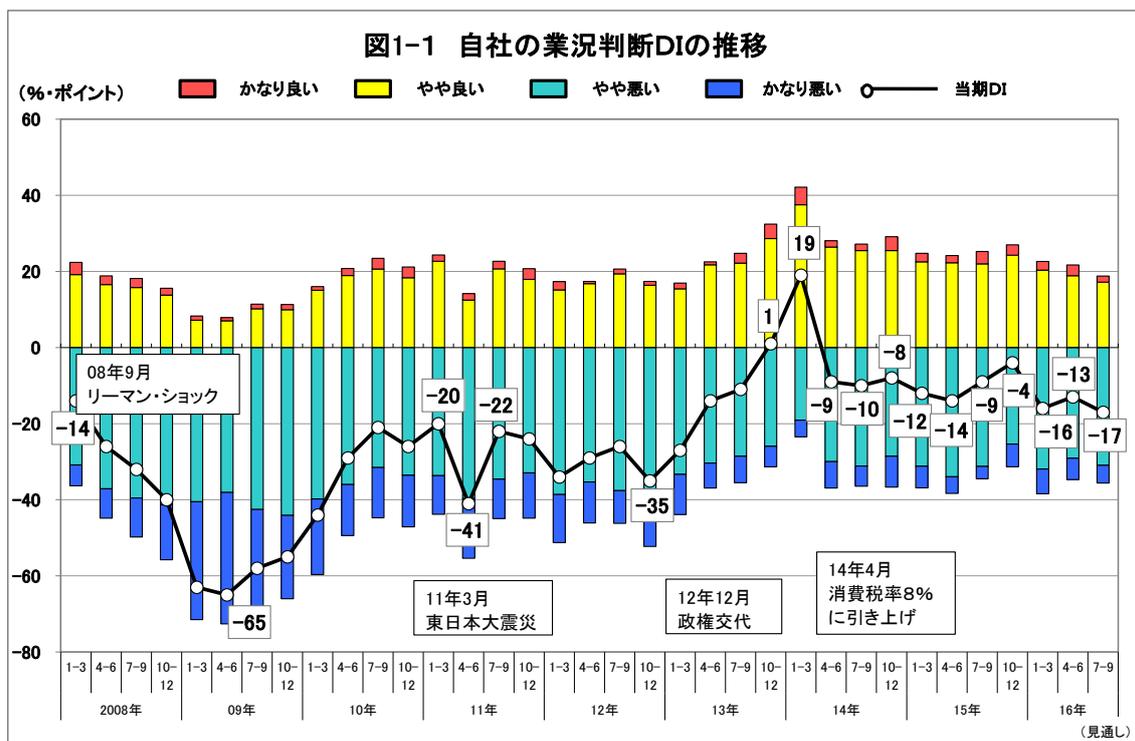
【お問い合わせ先】 ㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 北村（TEL：077-523-2245）

1. 自社の業況判断

(1) 自社の業況判断DI…景況感やや回復も、9四半期連続のマイナス水準

1. 全体の動向 (図1-1)

今回の調査(16年4-6月期)での自社の業況判断DIは前回(16年1-3月期)の-16から3ポイント上昇の-13となり、マイナス幅が縮小した。消費増税が実施された14年4-6月期以降、9四半期連続で「悪い」と答えた企業の割合が「良い」を上回った。3カ月後は4ポイント低下の-17と、再びマイナス幅が拡大する見通しを示した。



2. 業種別の動向 (図1-2、表1)

業種別にみると、製造業は、前回の-25から14ポイント上昇の-11となった。前回プラス水準に回復した木材・木製品(前回: +9→今回: -29)が大幅に悪化して再びマイナス水準となったものの、金属製品(-21→+5)、電気機械(-11→+8)はマイナス水準からプラス水準に回復。化学(-11→±0)はマイナス水準からもちあいに回復。繊維(-25→-12)、窯業・土石(-38→-17)、食料品(-33→-9)、一般機械(-22→-13)、その他の製造業(-27→-14)などはマイナス幅が縮小した。3カ月後の製造業全体は、4ポイント悪化の-15となる見通しである。

非製造業は、前回の-9から5ポイント低下し-14となった。前回プラス水準に回復した建設(+8→-12)、運輸・通信(+6→-6)が再び悪化してマイナス水準となった。卸売(-25→-23)、小売(-34→-30)は2四半期連続で大幅なマイナス水準が続き低迷している。一方、不動産(-11→±0)は6四半期ぶりにもちあいに回復。サービス(-3→+4)は、4四半期ぶりにプラス水準に回復した。3カ月後は、現在から4ポイント低下の-18となる見通しである。

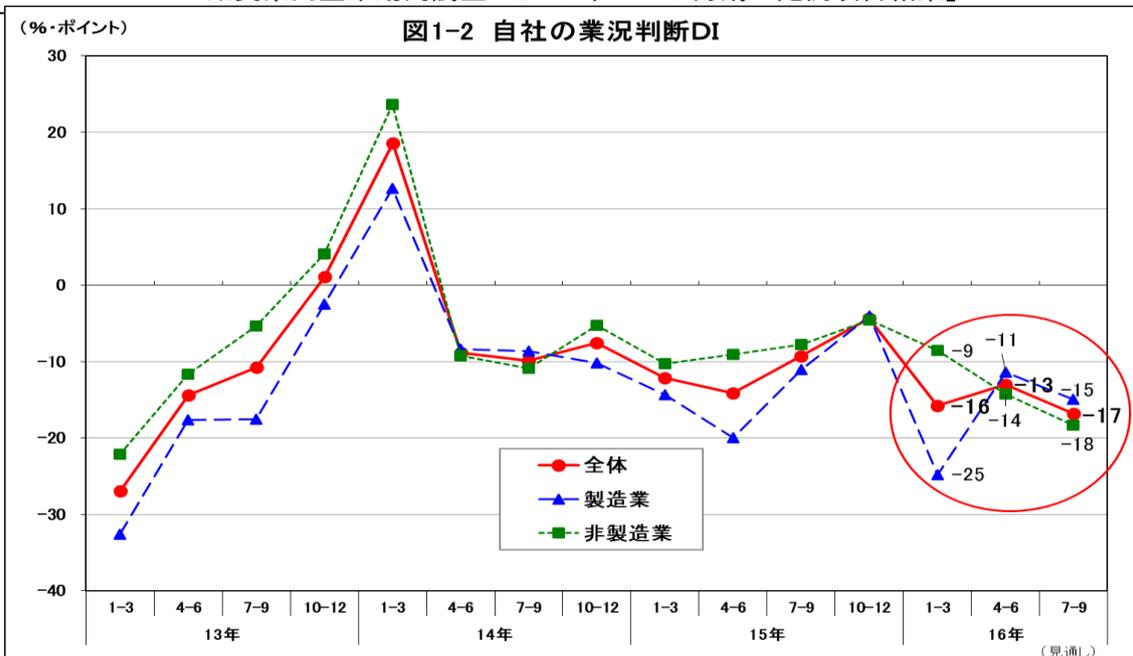


表1 自社の業況判断DI(業種別)

業種(※1)	今回の回答社数	16年 1-3月期 前回	16年 4-6月期 今回(※2)	16年 7-9月期 見通し
全体	323	-16	-13 (-17)	-17
製造業	140	-25	-11 (-25)	-15
繊維	17	-25	-12 (-50)	-35
木材・木製品	7	9	-29 (-27)	0
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	9	-11	0 (11)	33
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	6	-38	-17 (-38)	-33
鉄鋼	×	-50	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	11	-33	-9 (-22)	-27
金属製品	19	-21	5 (-29)	-44
一般機械	15	-22	-13 (-22)	-7
電気機械	12	-11	8 (0)	0
輸送用機械	4	-63	-50 (-50)	-25
精密機械	4	0	-50 (-67)	-25
その他の製造業	29	-27	-14 (0)	-3
非製造業	183	-9	-14 (-10)	-18
建設	53	8	-12 (-15)	-15
不動産	9	-11	0 (-11)	27
卸売	40	-25	-23 (-21)	-40
小売	29	-34	-30 (-24)	-42
運輸・通信	17	6	-6 (0)	6
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	37	-3	4 (19)	7
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	10	10	-38 (-11)	-63

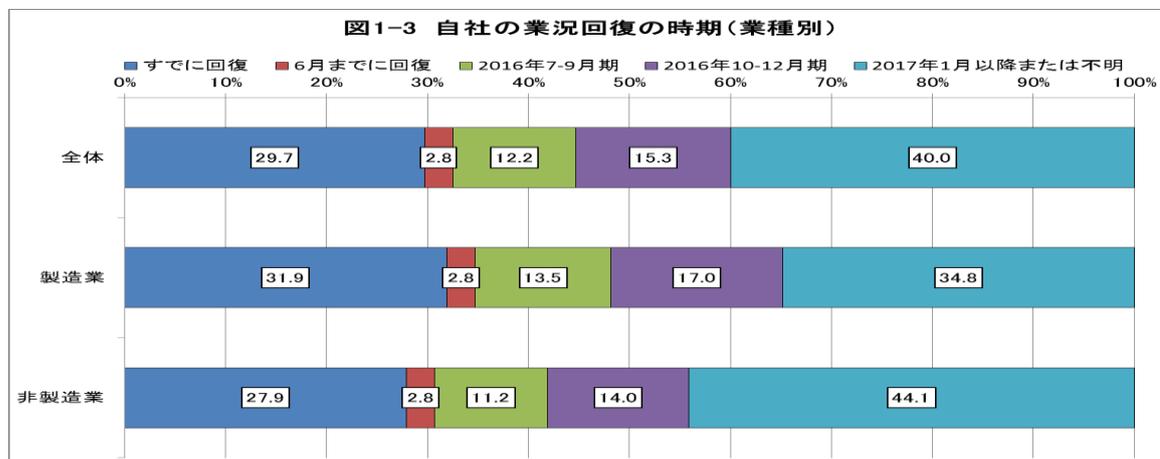
(※1) 回答数が3社以下の業種は非表示(×)

(※2) ()内の数値は前回調査時点での4-6月期の見通し

(2) 自社の業況回復の時期…「すでに回復」は約3割(図1-3)

自社の業況回復の時期をみると、「すでに回復（好調維持を含む）」した企業の割合は29.7%と約3割になり、「6月まで」（2.8%）を合わせると32.5%と約3分の1に上った。一方で半年以上先の「17年1月以降（不明を含む）」も4割（40.0%）を占め、一部では業績不振が続くとみられる。

業種別では、「すでに回復」した企業の割合は、製造業の31.9%に対し非製造業は27.9%と、製造業の方が回復の割合が高くなった。



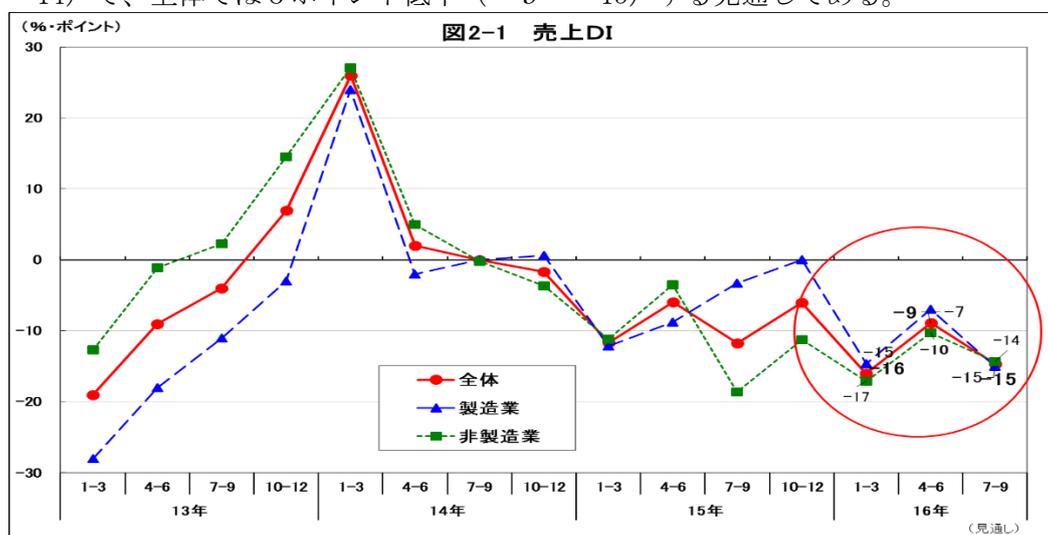
2. その他の判断項目

(1) 売上DI…マイナス幅縮小も、7四半期連続でマイナス水準

現在の売上DI（「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値）は-9で、前回の-16から7ポイント上昇、全体では7四半期連続でマイナス水準（「減少」超過）が続いている。

業種別では、製造業は-15から-7に8ポイント上昇。前回プラス水準に回復した木材・木製品（+9→-38）が再びマイナス水準に低下。金属製品（+14→-5）もマイナス水準に低下するも、電気機械（-11→+33）がプラス水準に回復。輸送用機械（-38→±0）ももちあいに回復。食料品（-78→-18）、窯業・土石（-38→-17）などはマイナス幅が縮小した。非製造業も-17から-10に7ポイント上昇した。不動産（-11→-42）、その他非製造業（-10→-50）などはマイナス幅が拡大するも、サービス業（-13→+7）は4四半期ぶりにプラス水準に回復。建設（-11→-4）、運輸・通信（-29→-13）などはマイナス幅が縮小した。

3カ月後は、製造業は8ポイント低下（-7→-15）、非製造業は4ポイント低下（-10→-14）で、全体では6ポイント低下（-9→-15）する見通しである。

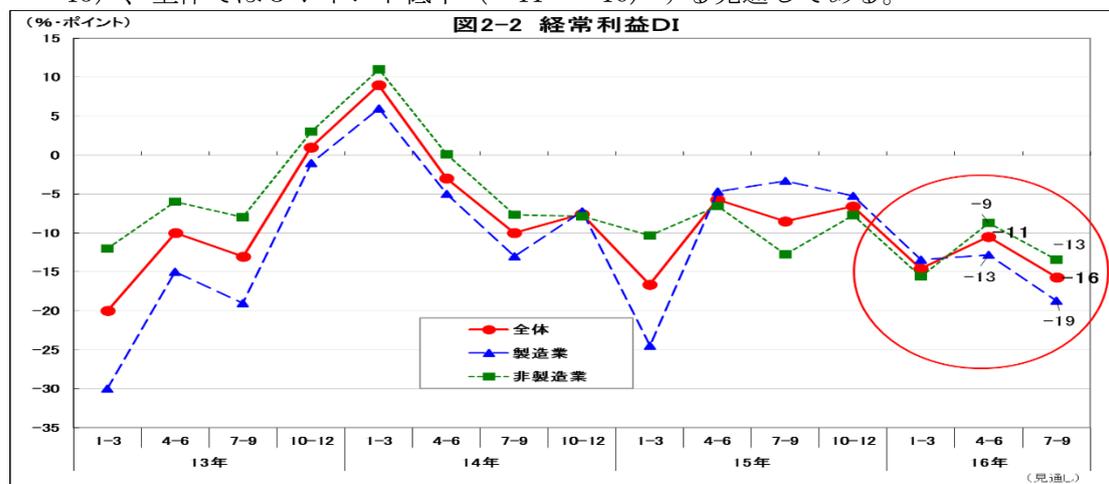


(2) 経常利益DI…マイナス幅縮小も、9四半期連続のマイナス水準

現在の経常利益DI（「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値）は-11で、前回の-15から4ポイント改善するも、9四半期連続でマイナス水準になった。

業種別にみると、製造業は前回と同水準（-13→-13）となった。前回プラス水準に回復した木材・木製品（+9→-38）、金属製品（+7→-11）が再びマイナス水準に低下。化学（+22→±0）は、プラス水準からもちあいに低下。一般機械（-11→-40）などはマイナス幅が拡大するも、電気機械（-33→+17）はマイナス水準からプラス水準に回復、食料品（-45→±0）、繊維（-13→±0）はもちあいに回復、窯業・土石（-50→-33）などはマイナス幅が縮小した。非製造業は7ポイント上昇（-16→-9）した。不動産（-11→-18）、建設業（-11→-17）、小売（-21→-26）、その他非製造業（-30→-50）はマイナス幅が拡大するも、卸売（-23→+8）、サービス（-16→+10）はプラス水準に回復した。

3カ月後は、製造業は6ポイント低下（-13→-19）、非製造業は4ポイント低下（-9→-13）、全体では5ポイント低下（-11→-16）する見通しである。

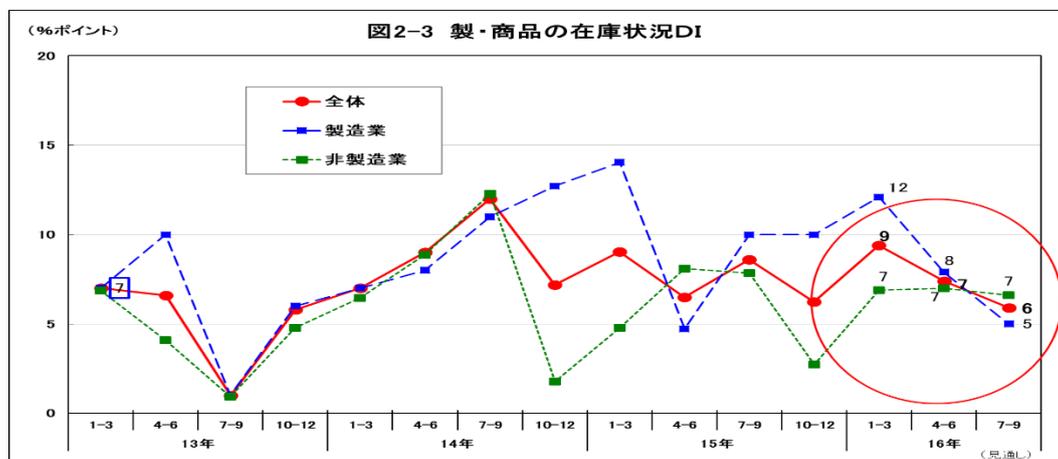


(3) 製・商品の在庫状況DI…過大感やや弱まる

現在の製・商品の在庫状況DI（「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は+7で、前回の+9から2ポイント低下し過大感が弱まった。

業種別にみると、製造業は4ポイント低下（+12→+8）した。食料品（+11→±0）、電気機械（+44→±0）、輸送用機械（+13→±0）がもちあいに回復した。非製造業は前回と同水準（+7→+7）となった。運輸・通信（+6→-8）、サービス（+3→-8）がマイナス水準に低下。不動産（-22→+18）がプラス水準に上昇。卸売（+20→+18）、小売（+10→+26）では過大感の強い状況が続いている。

3カ月後は、製造業は3ポイント低下（+8→+5）、非製造業は今回と同水準（+7→+7）となり、全体では1ポイント低下（+7→+6）の見通しである。

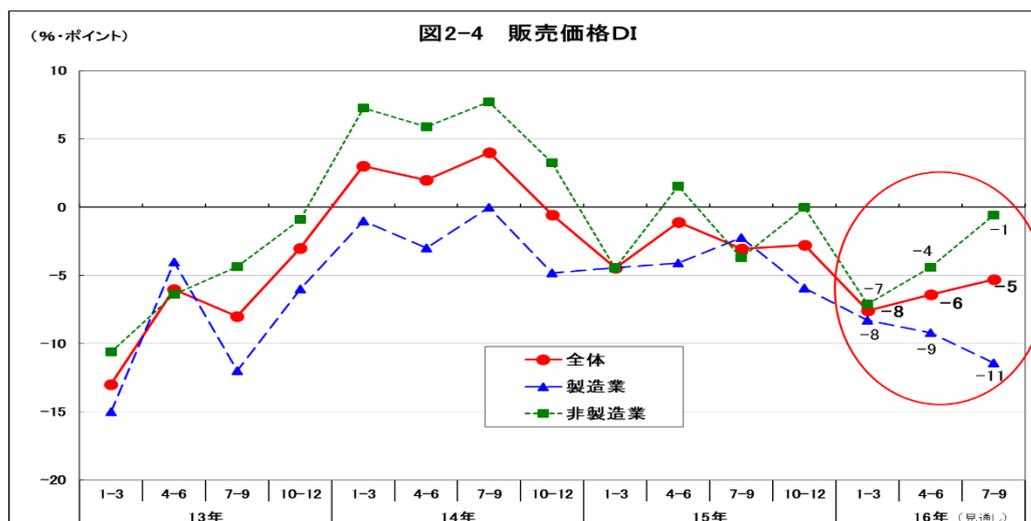


(4) 販売価格DI…非製造業のマイナス幅が縮小

現在の販売価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は、-6で前回の-8から2ポイント上昇した。

業種別にみると、製造業は1ポイント低下（-8→-9）。食料品（-11→+9）はプラス水準に上昇も、繊維（+8→-6）、木材・木製品（±0→-13）、輸送用機械（±0→-25）などが低下した。非製造業は3ポイント上昇（-7→-4）でマイナス幅が縮小した。運輸・通信（+6→-7）、不動産（+11→±0）などは低下するも、サービス（±0→+10）はプラス水準に上昇した。

3カ月後は、製造業が2ポイント低下（-9→-11）、非製造業は3ポイント上昇（-4→-1）となり、全体では1ポイント上昇（-6→-5）となる見通しである。

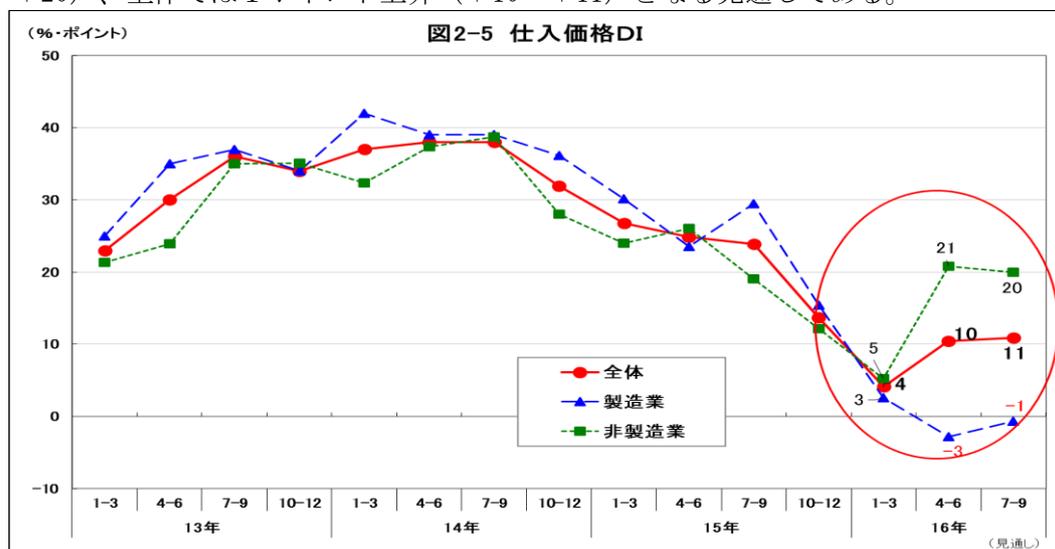


(5) 仕入価格DI…非製造業が大幅上昇し、全体では7四半期ぶりに上昇

現在の仕入価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+10で、前回の+4から+6ポイントと、7四半期ぶりに上昇した。

業種別にみると、製造業は-6ポイント低下（+3→-3）しマイナス水準になった。食料品（±0→+18）は上昇も、繊維（+17→-12）、木材・木製品（±0→-25）、化学（±0→-25）などが大幅に低下してマイナス水準となった。非製造業は16ポイント上昇（+5→+21）した。運輸・通信（-44→+23）は大幅に上昇してプラス水準となった。不動産（+25→+10）、その他の非製造業（+11→±0）は低下するも、卸売（+18→+28）、小売（+10→+33）などは上昇した。

3カ月後は、製造業は2ポイント上昇（-3→-1）、非製造業は1ポイント低下（+21→+20）、全体では1ポイント上昇（+10→+11）となる見通しである。

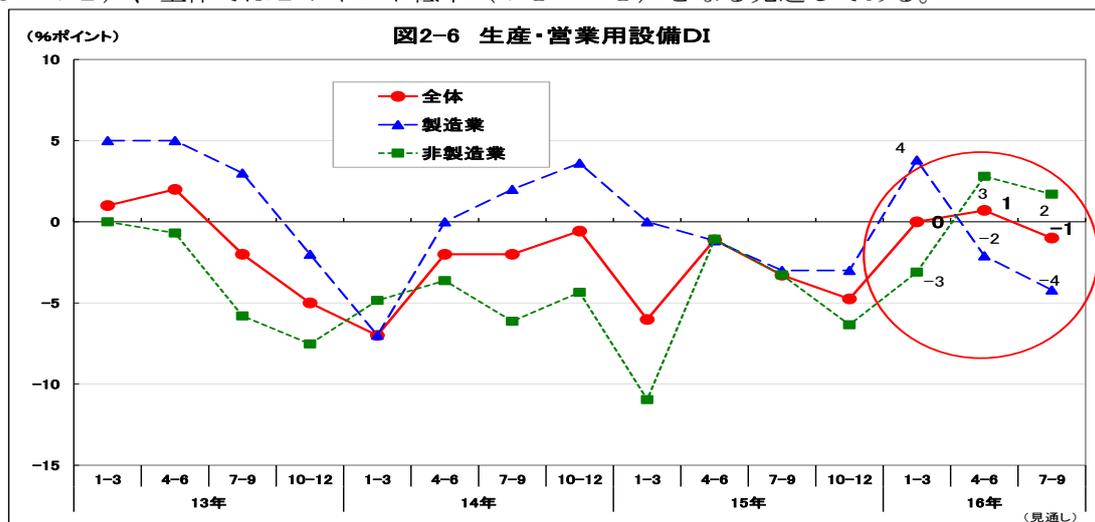


(6) 生産・営業用設備DI…12 四半期ぶりにプラス水準に

現在の生産・営業用設備DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は、前回の±0から1ポイント上昇の+1と、12 四半期振りにプラス水準に戻った。

業種別にみると、製造業は6ポイント低下（+4→-2）した。木材・木製品（-18→+13）、食料品（-11→+9）などが上昇し過剰感が強くなった。一方、化学（+22→-11）などで不足感が強くなった。非製造業は6ポイント上昇（-3→+3）。運輸・通信（+6→+20）などで上昇し、過剰感が強くなった。不動産（-14→±0）、サービス（-14→-7）は、不足感が弱まった。

3カ月後は、製造業は2ポイント低下（-2→-4）、非製造業は1ポイント低下（+3→+2）、全体では2ポイント低下（+1→-1）となる見通しである。

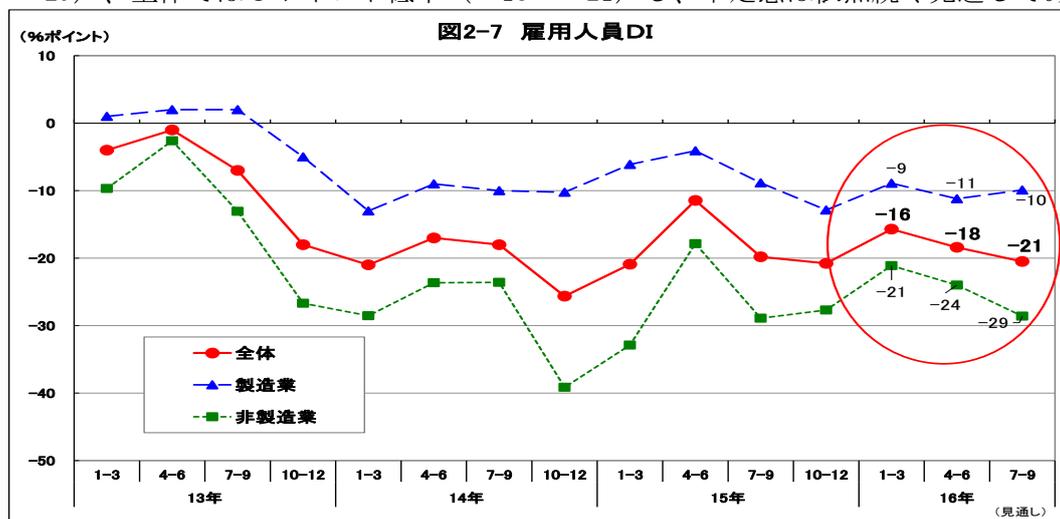


(7) 雇用人員DI…不足感やや強まる

現在の雇用人員DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は-18と前回の-16から2ポイント低下。12年7-9月期から16 四半期連続でマイナス水準（人手不足）となり、厳しい状況が続いている。

業種別にみると、製造業は2ポイント低下（-9→-11）。木材・木製品（-9→+13）、電気機械（-22→±0）、輸送用機械（-13→±0）などは上昇し不足感解消も、窯業・土石（±0→-17）、食料品（-11→-27）、金属製品（-14→-26）などは大幅に低下し不足感が強まった。非製造業は3ポイント低下（-21→-24）した。小売（-28→-52）、サービス（-24→-43）などは大幅に低下し不足感が強まった。建設（-35→-28）はやや改善も引き続き不足感が強い。

3カ月後は、製造業は1ポイント上昇（-11→-10）、非製造業は5ポイント低下（-24→-29）、全体では3ポイント低下（-18→-21）し、不足感は依然続く見通しである。



3. 設備投資の実施状況

(1)設備投資の実施割合…3四半期ぶりに5割割れ

今期（4-6月期）に設備投資を実施した（する）企業の割合は44%だった。前回まで2四半期連続で50%超だったが、3四半期ぶりに50%を下回った。

業種別にみると、製造業は46%で、前回（56%）から10ポイント低下。うち繊維（67%→35%）、窯業・土石（88%→50%）などで大きく低下した。非製造業は43%（前回（51%）から8ポイント低下。うち不動産（22%→9%）、小売（52%→37%）、運輸・通信（82%→47%）、サービス（61%→53%）、その他非製造業（50%→13%）などが低下した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が41%、非製造業が34%で全体では37%と、更に低下する見通しである。

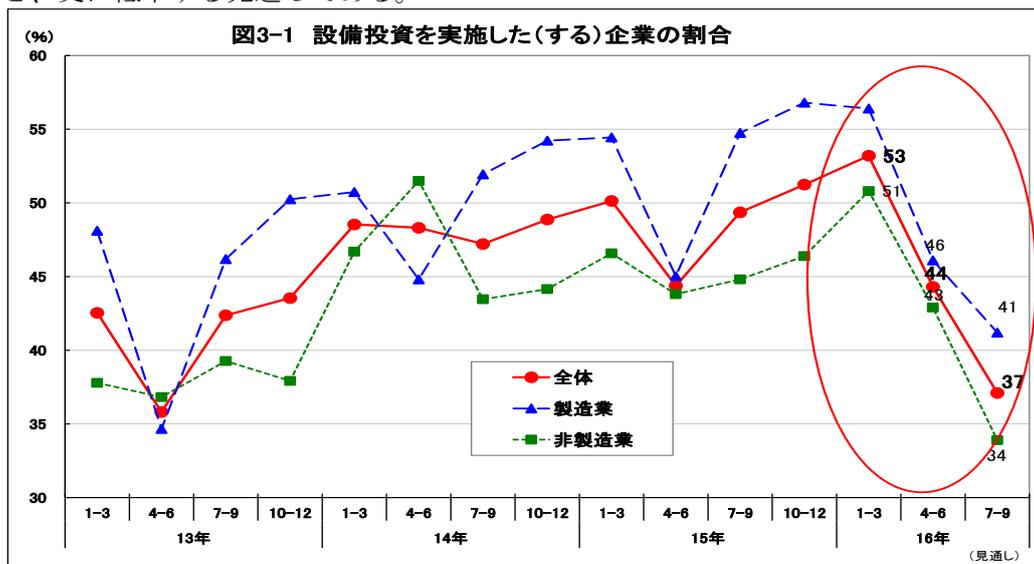


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

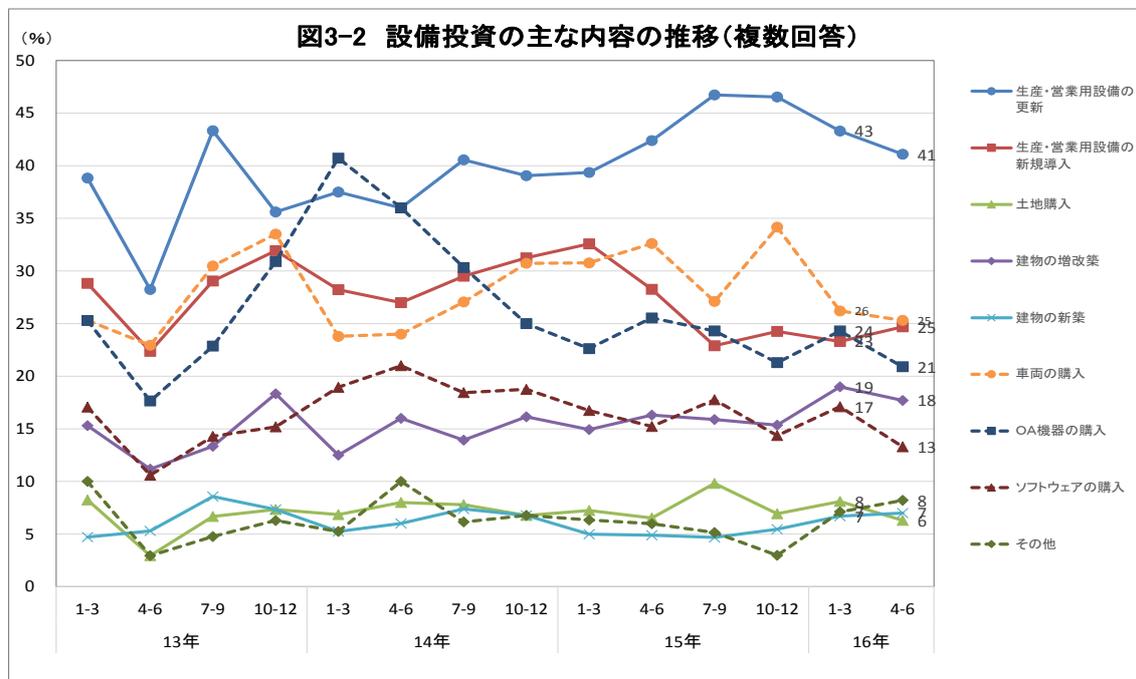
業種(※)	16年 1-3月期 前回	16年 4-6月期 今回	16年 7-9月期 見通し
全体	53	44	37
製造業	56	46	41
繊維	67	35	44
木材・木製品	27	13	25
紙・パルプ	X	X	X
化学	78	63	50
石油・石炭	X	X	X
窯業・土石	88	50	80
鉄鋼	50	X	X
非鉄金属	X	X	X
食料品	56	46	50
金属製品	50	47	21
一般機械	61	53	50
電気機械	44	42	27
輸送用機械	75	75	50
精密機械	X	0	0
その他の製造業	45	53	47
非製造業	51	43	34
建設	39	43	25
不動産	22	9	17
卸売	48	54	34
小売	52	37	48
運輸・通信	82	47	43
電気・ガス	X	X	X
サービス	61	53	48
リース	X	X	X
その他の非製造業	50	13	13

(※)回答数が3社以下の業種は非表示

(2)設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の更新」が9四半期連続のトップ

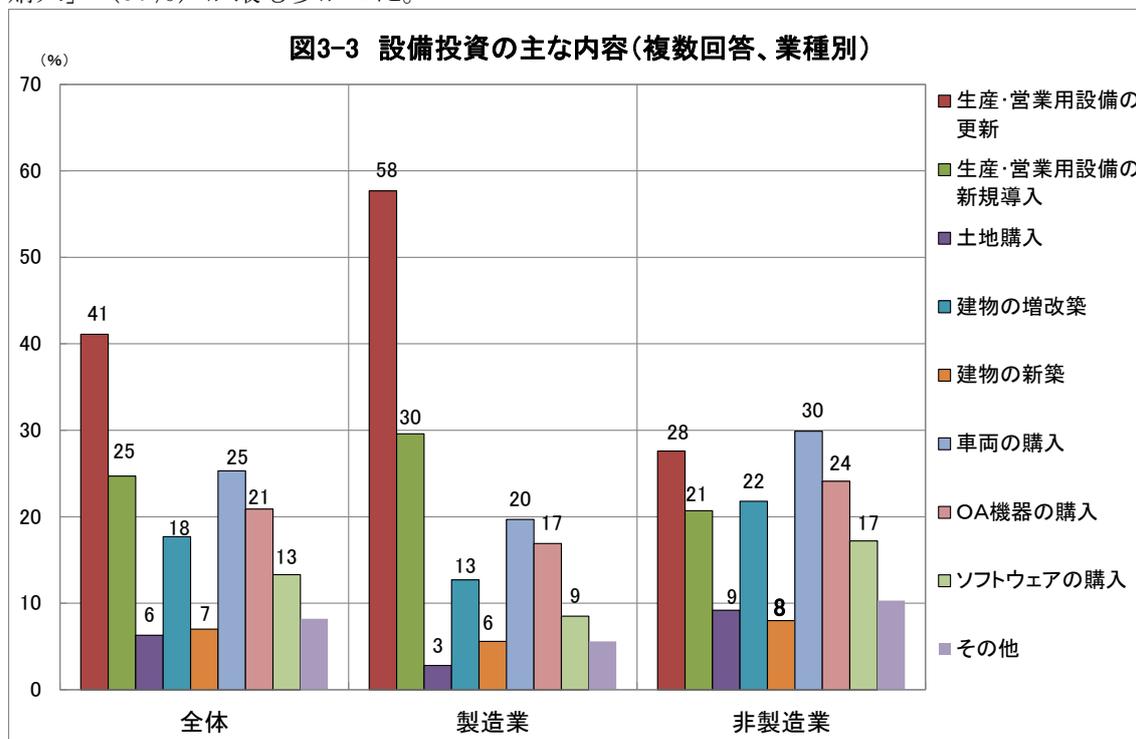
1. 全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(41%)が9四半期連続で最も多かった。次いで「生産・営業用設備の新規導入」「車両の購入」(25%)、「OA機器の購入」(21%)と続いた。



2. 業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(58%)、非製造業は「車両の購入」(30%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
繊維	・同業の減少、季節的要因。 ・受注堅調対前年増。
木材・木製品	・売上のUPと利益率の向上に伴うキャッシュフローの改善。
化学	・原燃料の価格低下によるコスト減。円安継続による収益増。
金属製品	・ポンプ、バルブ部品（化学プラント、発電など）が多い。 ・親会社の事業計画。
一般機械	・売上が15%増加。 ・大手の業績が良いので、直近3カ月くらいは、かなり良い。
輸送用機械	・主要顧客のスキー場事業者は、今冬の降雪不足で営業的ダメージ多大、当社の今期受注は前期成約分であり影響はこれから。また観光地ロープウェイ事業者の更新ニーズ堀越しでの受注成約もあり、当面は堅調。
その他の製造	・4月の年度初めには各顧客の組織変更があり、組織体制が落ち着くまで開発業務が進まず、受注減少になる予測。 ・新規商品の取込みで上向き傾向にある。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
繊維	・衣料消費の落ち込みによる注文減。 ・インテリアカーテンの売上が40%減。 ・売上の減少。
木材・木製品	・消費税反動減、市場の変化、売上単価の下落等により、前期売上高が18.5%減となり、今もこの下落傾向は続いている。
化学	・建物の賃借料収入がベース。 ・昨年、原材料の仕入れミスにより8か月間で売上2,000万円減少。
窯業・土石	・売上減少。 ・売上が前年と比較して減少。
食料品	・売上低迷が続いている。 ・グループ企業からの受託の減少→他工場へ。
金属製品	・主製品売上24%減少。
一般機械	・国内鋳鉄管出荷重量減少。 ・売上減。 ・取引先が工場を増やし、一部の仕事がそちらに流れたため、外注先の仕事が減少した（10～15%）。
電気機械	・円高の影響で海外売上高が5%程度減少する見込み。
輸送用機械	・熊本県地震影響により売上が4%減少した。
精密機械	・受注減で売上が10%減少した。
その他の製造	・熊本の地震の影響。 ・原油価格下落の影響で売上が5%減少した。 ・生産高、売上高減少。 ・製品の性質上時期的な要因に左右されやすい。現在は閑散期である。

【非製造業】

「良い」 (かなり良い+やや良い)

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> 自動車関連メーカーからの受注増に加え、熊本地震による工場内設備の修繕依頼もあるため。 設備工事では、価格競争激しいものの受注引き合い多い(官民とも)。 客先の大型設備計画の影響により受注が好調。 前期より繰越した工事の完成による売上増。 取引先(施主)卸の悪化でその部門が50%減少。県外企業、大手建設業の下請けでカバーでき、今期はやや良い。先が見えない部分があり、他の方面への営業も必要。
不動産	<ul style="list-style-type: none"> 売上増加。 自己資本比率50%以上。
卸売	<ul style="list-style-type: none"> 新規受注売上増。 石油類販売主力。利益率向上するも売価低下より売上減少。
小売	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より売上は横ばいですが利益が1.5倍になった模様。 原料高騰の影響で値上げ商品が相次ぎ今後客数が減少する。
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> 原油値下りで仕入が楽になった。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> 手持ち業務が多い。 去年は7月より地域創成支金の「ふるさと割」があり、かなり宿泊者が増えたが、今年度はその反動による。
その他非製造	<ul style="list-style-type: none"> 売上の増加。

「悪い」 (かなり悪い+やや悪い)

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> ハウスメーカーからの受注減。 今のところ公共工事が全然決まっていない。 工事収入の大幅な減少。 手持工事の今後予定を見通した場合、当面売上高が前年同期比マイナスで推移する。 公共投資の減少。低調な設備投資。
不動産	<ul style="list-style-type: none"> 住宅需要(新築)の減少。
卸売	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の好みと時代の流れで需要が減り量業界は不況に直面しているので当分売上増は望めない状況。 主力製品の出荷における熱処理問題の課題の未解決および世界的な原油安における石油関連製品の出荷の減少。 LPGのFOB価格に連動して国内価格も設定されているため、今期も下落状況が続いている。 気候変動により、取扱い数量が変化する。 原油価格の高騰。 ガラス交換をせず、リペア処理で済ますお客様が引き続き増加している。その為、売上が減少している。 離農する農家と離農しようとしている農家が多いので機械は売れない中古の入庫も少ない。 価格競争で売上が減少した。 暖冬の影響でガスの売上が減少した。 売上が前年実績を下回っている。 円安とネット販売による価格競争(価格を下げざるを得ない)の為、利益の低下。
小売	<ul style="list-style-type: none"> 既存店売上前年比伸びの低下。 夏期にかけてガス消費量の減少。 粟東は自動車販売のディーラーが多いので値引額サービスで太刀打ちできない。 原油価格下。石油・LPガスの販売減少。 卸価格に影響する中東原油の円建てコスト高になり価格競争が激化している。 仕入商品の値上がり。 イベント(成人式、春彼岸、卒業式、退職祝、入学祝、母の日、父の日等)での店頭販売が極端に減ってしまった。ネットにての注文、販売が伸びてしまった。 売上げの減少、利益幅の縮小。
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> 熊本地震の影響で元請業者が部品供給出来なくなり生産がストップ。三菱不正問題により予定していた新規の検査業務も停止。流通部の売上が当初予算より30%減少となる見込み。 強風による桜クルーズでの欠航の増加、インバウンドアーリーモーニング減、GWの長期化、飛び石連休による分散化等、4-6月純損益で31%減の予想。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> 当社は企業内給食業を営んでいるが、取引先の従業員が横パイであり、食数が伸びない。又、時間外労働の規制があり、夕食が減少している。 取引先の経費見直しから、契約更新時に委託契約料の引下げを求められる。 4月後半以降、売上が前年を下回っている。 単価増加により、低い単価の原因を改善するため、一時的に稼働率が低下。 法事等の冠婚葬祭の売上単価が年々下落している。対策をとっているが、物価(農作物等)は上昇しているので、利益が圧迫される。
その他非製造	<ul style="list-style-type: none"> 和牛子牛高騰で、仕入価格が増加。売上増加も追い付いていない。

2. DI回答一覧(業種別)

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年							
調査時期	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-16	-17	-13	-17	-16	-20	-9	-15	4	4	10	11	-8	-11	-8	-5
製造業	-25	-25	-11	-15	-15	-22	-7	-15	3	-5	-3	-1	-8	-16	-9	-11
繊維	-25	-25	-12	-35	-17	54	-6	-30	17	8	-12	-6	8	-4	-6	-18
木材・木製品	9	-27	-29	0	9	30	-38	-13	0	0	-25	0	0	-10	-13	-25
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-11	11	0	33	11	11	0	0	0	-22	-25	0	-33	-33	-22	-11
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-38	-38	-17	-33	-38	38	-17	-50	25	13	0	0	-13	-13	-17	-17
鉄鋼	-50	-50	X	X	-75	75	X	X	-50	-75	X	X	0	-50	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-33	-22	-9	-27	-78	56	-18	-36	0	-22	18	-9	-11	0	9	0
金属製品	-21	-29	5	-44	14	29	-5	-33	-7	-7	-11	-11	-7	0	-5	-11
一般機械	-22	-22	-13	-7	-6	17	-27	-13	-11	-11	-7	7	-17	-22	-7	0
電気機械	-11	0	8	0	-11	22	33	0	11	11	8	8	-22	-33	-17	-17
輸送用機械	-63	-50	-50	-25	-38	63	0	0	13	25	0	0	0	-13	-25	-25
精密機械	X	X	-50	-25	X	X	-50	-25	X	X	-25	0	X	X	-25	0
その他の製造業	-27	0	-14	-3	-17	33	0	0	7	-3	10	0	0	-13	-3	0
非製造業	-9	-10	-14	-18	-17	-18	-10	-14	5	10	21	20	-7	-7	-4	-1
建設	8	-15	-12	-15	-11	41	-4	-13	0	9	11	9	-15	-11	-11	-7
不動産	-11	-11	0	27	-11	33	-42	-18	25	0	10	20	11	0	0	0
卸売	-25	-21	-23	-40	-23	37	-5	-21	18	18	28	24	-13	-11	-5	8
小売	-34	-24	-30	-42	-21	35	-22	-15	10	10	33	23	-14	0	-4	-4
運輸・通信	6	0	-6	6	-29	41	-13	-13	-44	0	23	54	6	0	-7	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-3	19	4	7	-13	32	7	0	14	11	24	18	0	-8	10	3
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	10	-11	-38	-63	-10	56	-50	-38	11	13	0	14	20	0	-13	0

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年
調査時期	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-15	-19	-11	-16	9	4	7	6	0	-1	1	-1	-16	-14	-18	-21
製造業	-13	-23	-13	-19	12	4	8	5	4	0	-2	-4	-9	-4	-11	-10
繊維	-13	-25	0	-30	17	13	18	18	13	17	0	-6	-13	-17	-12	-6
木材・木製品	9	-40	-38	-13	-18	-10	13	13	-18	0	13	13	-9	10	13	0
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	22	22	0	-22	0	0	0	0	22	11	-11	-11	-11	0	-11	-11
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-50	-50	-33	-33	0	0	0	0	-13	-38	-17	-17	0	0	-17	-17
鉄鋼	-100	-75	X	X	0	0	X	X	50	50	X	X	25	50	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-45	-44	0	-9	11	0	0	0	-11	-11	9	0	-11	-22	-27	-46
金属製品	7	-14	-11	-28	21	7	11	0	0	7	-5	0	-14	-14	-26	-11
一般機械	-11	-17	-40	-27	17	11	20	7	17	6	7	-7	-6	6	-7	-7
電気機械	-33	-33	17	9	44	11	0	0	11	0	0	0	-22	-22	0	-8
輸送用機械	-38	-63	0	0	13	0	0	0	0	-13	-25	-25	-13	0	0	0
精密機械	-33	-67	X	X	0	0	-25	0	-33	-33	0	0	-33	0	25	0
その他の製造業	0	3	-10	-7	3	0	3	3	-3	-10	-3	-3	-10	-13	-20	-10
非製造業	-16	-15	-9	-13	7	4	7	7	-3	-2	3	2	-21	-22	-24	-29
建設	-11	-21	-17	-21	4	0	-2	0	-2	0	0	-2	-35	-28	-28	-41
不動産	-11	-11	-18	-10	-22	0	18	18	-14	-14	0	0	0	0	9	-9
卸売	-23	-18	8	-11	20	11	18	18	3	0	5	5	-3	-13	0	8
小売	-21	-31	-26	-27	10	7	26	15	0	-4	0	0	-28	-35	-52	-50
運輸・通信	0	-12	0	0	6	6	-8	-8	6	13	20	27	-12	-6	-13	-33
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-16	11	10	3	3	0	-8	-8	-14	-11	-7	-7	-24	-24	-43	-45
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-30	-45	-50	-25	0	13	0	14	-10	11	25	0	-30	-22	-13	-13

※回答数が3社以下の業種は非表示 (Xと表示)